

【市長と語る懇談会 記録】

開催日 平成 25 年 6 月 13 日 (木)
地区／会場 今一色小学校区/今一色小学校 1 階家庭科室
参加者数 31 人
後日回答となった質問 1 件



《質問・意見》

避難タワーについて

- ・ 避難タワーの設置については、自治会から要望をあげてほしいと言われ、要望してもらった。その後、自治会から何度も要望したが何も聞いてくれない、というがどうなっているか。
- ・ 西地区に予定されている避難タワーは、西地区の人だけが利用可能なのか。今一色にも設置をしてほしい。

《回答》

(危機管理課)

- ・ 今一色からは、以前から避難タワーの要望が出ている。平成 23 年度から避難所の見直しを行った。安全な避難所を提供するため、指定避難所を記載した防災マップを先般各世帯にお配りした。津波の場合、高台への避難が望ましいが、今一色地域については今一色小学校が津波避難所として機能する。三重県の想定では、南海トラフで東日本大震災レベル (M 9.0、震度 7) の地震が発生した場合、今一色小学校の浸水は 2.56m となる。したがって今一色小学校の 2 階以上に避難すると津波被害からは逃げる事が出来るというもの。そういった想定、観点で津波避難所を見直したことから、市としては今一色小学校を有効利用できるものと考えている。
- ・ 西地区には、今一色小学校のような津波避難に有効な公共施設がない。コミュニティセンターを含め、2 箇所の公共施設はあるものの、構造による高さ不足、収容可能人数不足等で、近辺の人口規模に対応できないため、避難タワー等の設置の必要性がある。西地区に予定している避難タワーについては、付近のどのくらいの人数が避難の必要があるかを計算上で求めたものであるため、今一色の人々が避難できないというものではない。避難タワーが出来たときには訓練を通じ、広域的に避難場所調整を行う必要もあると考えている。

(市長)

- ・ 沿岸部の市民の切実なお気持ちは同じ。避難場所を指定、設置するにあたっては、避難の場所・方法の有無を考慮し、人口から計算して、必要性の高い順に整備を予定している。ま

ずは逃げる場所のない地域を優先したいと考えている。

《質問・意見》

避難場所と訓練について

- ・ 今一色の人口と小学校等の避難収容可能人数は何人か。小学校に 1,000 人、コミュニティセンターに 200 人程の避難が可能なら、高台への避難訓練は無駄。いつ来るかわからない津波に高い費用をかけるより、逃げられるところに逃げればよいと思っている。
- ・ 高城保育園の近くにある避難タワーは無駄。保育所内に設置されてこそ。(意見)

《回答》

今一色(住所)は、1,260 人。今一色地区(自治会)は、約 1,700 人強。いくらい建物があっても、避難訓練ができなかったり、通信できず情報が入らなかったりではいけない。活用できないといけない。季節、時間帯など様々な状況での訓練を重ねることが大切。問題点を出し、町でやるのか、行政がやるのか、一緒にやるのかなど議論し続け、対策を作る。そういったことが大切であると考えている。

《質問・意見》

二見町全体訓練について

前回の二見町全体避難訓練では、今一色から光の街まで徒歩で 1 時間半かかる。無駄な避難訓練であった。今一色小学校屋上に避難するなど、もっと確実な訓練を行うべき。

《回答》

今までは町会ごとなど、部分的な訓練を行っていた。全体でどうするかは初めて。そこで気づいた事も多々ある。無駄とするのも訓練の成果であり、訓練を繰り返すことによって適切な避難につながる。今後の地域での避難訓練を行うときに、学校を使った場合はどうなるかということも実施してみたいか。

《質問・意見》

津波浸水想定について

- ・ 鳥羽では浸水想定は約 20m であったと思うが、伊勢湾内とはいえ今一色地区で 3m 程度の浸水という想定は本当か。想定外でした、では困る。より安全圏をとった想定を市として打ち出すべきではないか。
- ・ 大湊には安政地震の時の被害記録があるが、対岸の今一色には記録がない。同様の被害があったと思うが、当時どうだったのかいろいろ考えると心細い。(意見)

《回答》

完璧な数字はないと思う。今回の宮城県沖地震でも、現在の地震学者は当時、可能性は 2% 以下としていた。東海・東南海・南海、南海トラフでの地震として、現時点で読める最大の数字で想定しているが、それ以上のことが起こるかどうかはわからない。国・県は今考えられる最大の数字より少し上乗せした数字で、津波が来て、しかも堤防機能が全く無いという想定で、

約 3m という数字であることから、今まで日本で想定しているものの中で、最大のものとなっていると考えている。市としてはその想定のもとで対策を行っている。

《質問・意見》

二見公民館の図書室について

- ・ 読み聞かせ、紙芝居等の活動を行っていることから、二見公民館の図書室を利用するが、書棚が高く、倉庫のように感じ落ちていて読めない。児童用の本も少ない。また 2 階に設置されているため、不便を感じる。近辺の生涯学習センター、老人福祉センターを含め、どこかの 1 階に移設できないか。
- ・ 他地域の人に、合併協議で旧二見町では図書館は不要と言ったと聞いたが本当か。

《回答》

あらためて現場を見る。図書館はレイアウト・本の選定など、コーディネートが大切。意見をいただきながら考えたい。なお、現在、小・中学校の図書室の見直しを行っているところ。それらにもぜひ力を貸してほしい。

(二見総合支所)

旧伊勢市、旧小俣町には合併前から図書館はあった。合併前後には、二見に限らず新たに図書館を作るといふ議論はないと思う。使いやすさについては大切と考えるため、検討したい。

(後日回答)

市長にも現地確認していただきましたが、二見公民館図書室の状況、並びに書籍の管理上他の施設への移動は難しく、公民館 1 階ロビーの有効活用で対応したいと考えています。

なお、絵本等について要望がある場合は、伊勢・小俣図書館と同様、窓口にてリクエスト用紙に記載していただければ、書架の状況をみて購入することができます。

《質問・意見》

個人所有の建物への外階段設置補助について

個人が所有する建物は、耐震性があり、3 階建て、外階段及び手すりを設置すれば 50 人程度の避難場所として活用できると思う。個人建物の階段等の設置にかかる補助金はないか。

《回答》

現在は個人所有の建物への階段等設置補助制度は無い。今までにもご意見はいただき、研究は行っているところであるが、建物の耐震性の問題もある。引き続き研究させてもらう。

《質問・意見》

個人・民間建物への避難

町内には個人所有の 3 階建て建物が点在する。このような建物を一時的な避難場所として行政から協力要請等できないか。

《回答》

そういった意見はたくさんいただいている。会社、マンション等と交渉している。例えば神社港地区と神鋼電機さんの例のように、町会と企業が協定を結ぶ例がある。

ただ、市役所が民間のマンションと協定書を結ぶとなると、大々的になりすぎ、マンション等の防犯面での心配があるため、地元自治会と話をさせてほしいという例もある。行政との組み合わせ、地元との組み合わせの2つの方法が考えられる。所有者との話の中に、行政が説明を行うなどはできる。

《質問・意見》

避難場所について

- ・ 校舎の耐震性はあるのか。地震に耐えうるかどうかわからない不確実なものでなく、子どもたちのためにも確実な避難場所がほしい。
- ・ 盛土による避難場所の設置はどうか。自治会等が土地を提供し、第2伊勢道路の残土利用により簡単に安価にできるのでは。（意見）

《回答》

液状化の問題もあり、費用もかかることもある。今一色小学校の校舎は耐震強度はある。

《質問・意見》

① 二見町公民館について

二見町公民館の玄関横に馬車が置いてあるが、汚損して見栄え悪く、早期に片付けてほしい。

② 避難場所（学校屋上）の整備について

海岸堤防については、改修等がなかなか進まない。しかしお金がかかること、また津波には役に立たないと思うから、慌てなくともよいが、そのかわり学校屋上を完璧な避難場所にしてほしい。

《回答》

① 現場を確認します。

② 避難場所についてはわかりました。また、堤防整備はしっかりやっています。

《質問・意見》

いじめについて

以前、自治会への説明の際、教育長は伊勢市にはいじめは無いと断言していた。本日、市長は冒頭に、保護者からいじめの話を書くという話しをしたが、以前の教育長の話はうそか。

《回答》

大なり小なりの話があるかと思う。保護者の状況の話と、教育長の状況の話の違いであると思う。いじめゼロを目指して取り組みを行ってきた。教育委員会も力を入れ、学校の先生の数を増やしてきたことも事実。いじめのことは、取り組み続けていかなければいけない課題。地域の皆様のご協力もいただきたい。

《質問・意見》

① 障がい児ショートステイについて

(質問者の)子どもは障がいを持っている。近辺には、親が何かあった時利用できるショートステイがない。新病院建設に当たり、障がい児ショートステイを併設できないか。

② 避難場所(学校)について

- ・ 津波災害に絡んで学校を高台に持っていくという話があるが反対である。大変であっても地域内連携したほうがよい。
- ・ 通り魔事件等犯人が見つからないまま帰宅させるより、学校内に保護したほうがよい。先の震災の津波被害のように、帰宅させたために被害を受けた例もある。学校に在る間に避難勧告が出た場合、帰らせるのではなく、必要なら泊り込みを行えるように、また訓練もそのようなことまで必要と思う。

③ 神宮のバリアフリー化

神宮は砂利道や階段があり、車椅子を押しての参拝は難がある。通路整備を行うとか、砂利道に見えるような舗装を行うなどできないか。

《回答》

① 現時点では、病院建設計画は具体的に進んでいるため、併設は難しい。別立てで議論していく必要がある。

- ② 地震津波の発生時の安全性のことと、その後の避難をどうするかとの2つに分かれると思う。今一色地内にあって避難させる時の方法と、高台に移したときの避難させる方法も同じ話になってくると思う。ただ、避難させる前であれば、出来るだけより安全性の高い場所に行ってもらえるほうが、優先度はかなり高いと思う。ただし地震発生後の逃げ方がきちっとしていなければ、被害は発生する。PTA、地域、学校が避難訓練を重ねていくということが一番大事である。
- ・ 訓練はいろいろなやり方を行っていくべき。避難生活の訓練も必要になっていくとも思う。積み重ねが大事。また、地域との連携をいかに構築していくかも大事。いじめの問題と同様、コツコツやっていくことで、何かあった時に対応が出来ることもある。よろしく願いしたい。

③ 市長就任当時から少しずつ働きかけを行っている。また、バリアフリー観光を推進推奨しており、全体の風潮が強くなっていくと、自然に変わっていくのではないかと考えている。神社によっては通りやすくしているところもある。たくさんの方が来て、これならみんなやっていくべきという雰囲気になっていくと思う。ありがとうございます。